

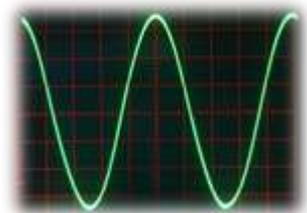


パイロット通信6号

平成29年 9月22日 (金)

①第8回「学びの変革」パイロット校事業に係る校内授業研究会について

9月14日(木)に第8回校内授業研究会を実施しました。1年生の理科の授業で「音による現象」について学習をしました。導入で、音楽の授業で使用するソプラノリコーダーとアルトリコーダーを見た生徒は「長さが違うよ」「音も違うよ」などの意見を発表し、そこから「音」に注目し、授業を深めていきました。今までの日常生活では「音」を「低い音・高い音」と「小さい音・大きい音」と経験から聞き分けていた生徒は、見えない音をテレビ画面で見える化できる「オシロスコープ」という機械の登場により、音を波形として捉えることができることに初めて気付きます。さらに、「ストロー笛」を鳴らすという体験から「音がする物体は振動している」ということを発見します。この日常生活では当たり前のように聞いてきた音を科学的にとらえ、考え始めた生徒は、今日の授業を通じて音について疑問に思うことをノートに記入していきました。ノートには「オシロスコープの波形が何を表しているのか知りたい」「リコーダー以外の楽器ではオシロスコープの波形がどのようになるのか実験で確かめてみたい」「音がしている物体は振動していることはわかったので、どのように音が伝わっていくかを知りたい」などの意見が書かれていました。授業後の生徒アンケートでは「今日の授業は好き、楽しい、わかりやすい」と肯定的な回答をした生徒が100%となり、「課題発見・解決学習」として大きな成果があったことを実感できました。



また、東部教育事務所の西野亘指導主事からは「いままでの理科の授業とは全く違う提案性の高い授業でした。今日の授業のように日々の授業を先生方が改善していくことが『主体的な学び』の推進につながります。」という言葉をいただきました。



2学期も生徒アンケートに基づいた授業仮説を設定しその検証を行い、さらに「一中における資質・能力(コンピテンシー)育成のための「すべ(アイテム)」と「手立て(サポート)」を授業に落とし込み、授業改善に取り組んでいきます。